

※ハーベスト グローバル インベストメント リミテッド提供の情報に基づき、S B I アセットマネジメントが作成

2017年2月吉日

持続的な経済発展を目指す「一帯一路」

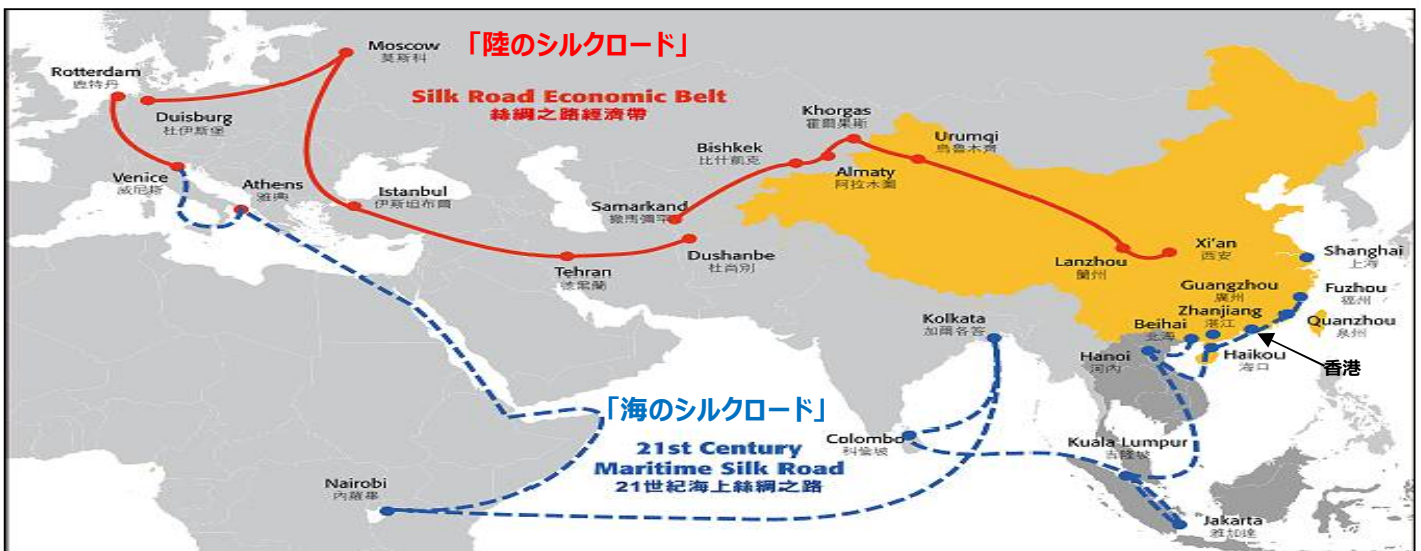
「一帯一路」構想は、遡ること2013年に中国の習近平国家主席が提唱しました。陸と海の2つの経路で中国から東南アジア、中央アジア、インドやアフリカを経由しヨーロッパまでを結び、巨大なシルクロード経済圏樹立を構想したものです。

「一帯」=「陸のシルクロード」：中国から中央アジアを経由しヨーロッパまでを繋ぐ陸上ルート

「一路」=「海のシルクロード」：アジアやインド、アフリカを経由しヨーロッパを結んだ海上ルート

「一帯一路」政策マップおよび参加国一覧

アジア・欧州・中東・アフリカを繋ぐ巨大な経済貿易圏の樹立は貿易や資本取引の拡大が目的とされており、影響としては各国の天然資源へのアクセス・利用の多様化、安全保障の確保、物流網や工業団地の発達等、経済規模の拡大が予想されています。



中央・西ヨーロッパ	中東およびアフリカ	中央・西アジア	南アジア	南西アジア
アルバニア、ベラルーシ、ボスニア、ブルガリア、クロアチア、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マケドニア、モルドバ、モンテネグロ、ポーランド、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、ウクライナ	バーレーン、エジプト、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェート、レバノン、オマーン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、シリア、トルコ、アラブ首長国、イエメン	アフガニスタン、アルメニア、アゼルバイジャン、ジョージア、イラン、カザフスタン、キルギスタン、モンゴル、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン	バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ	ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム

※【出所】香港貿易発展局

アジア・インフラ投資銀行（AIIB）発足で加速する「一帯一路」

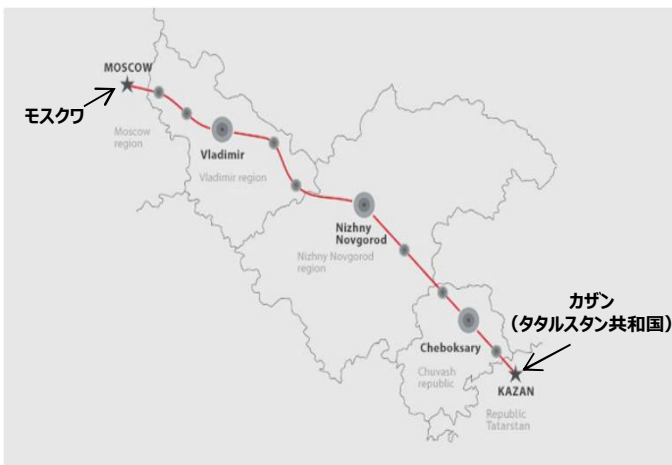
2013年以降、あまり大きな進展が見られていなかったものの、2016年1月のアジアインフラ投資銀行（AIIB）の開業以来、「一帯一路」関連の政策活動は2016年に入り徐々に増え始めています。インドネシアやマレーシアのインフラ開発プロジェクトに加えて、ロシアの鉄道建設プロジェクトやパキスタンの高速道路建設プロジェクトなど一連の政策活動や各種プロジェクトが具体化しました。

以下に、着々と進むプロジェクトの具体事例を主な地域ごとに紹介します。

インフラ開発プロジェクト

■北アジア地域

北京とロシアを結ぶ新たな鉄道開発プロジェクト

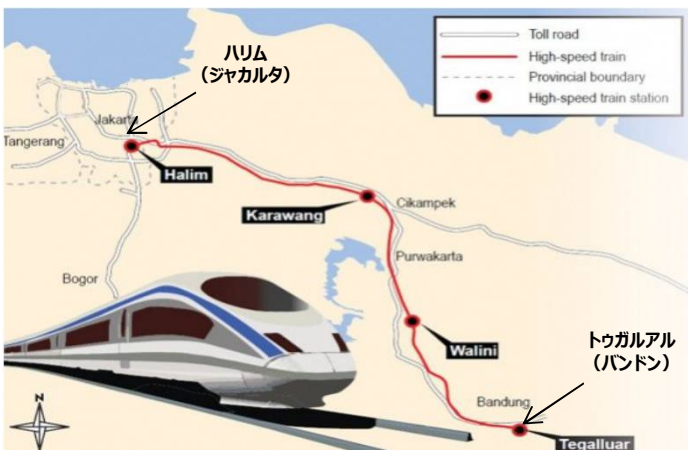


【出所】ハーベスト グローバル インベストメント リミテッド

- この構想は、ユーラシア・ランド・ブリッジ構想と呼ばれ、中国、ロシア、カザフスタンと西欧の一部をつなぐ複数の鉄道網の開発の一環です。最終的にロシア連邦の7つの地域まで延伸され、モスクワ・北京間を繋ぐ巨大鉄道網となる見通しです。
- 当該プロジェクトは、ロシアと中国が共同出資する合同プロジェクトであり、プロジェクト全体にかかる費用は、**150億ドル超**になると見込まれています。

■東南アジア地域

ジャカルタ・バンドン間を結ぶ高速鉄道プロジェクト



【出所】ハーベスト グローバル インベストメント リミテッド

- インドネシアは、2015年9月に東南アジアの国で初めて高速鉄道プロジェクトを中国に発注しました。インドネシアの首都ジャカルタと主要都市バンドンを結び、**東南アジア初**の高速鉄道プロジェクトです。
- 当該プロジェクト全体にかかる費用は、総額**51億ドル**にのぼり、全長**150キロメートル**の鉄道網が敷設される見込みです。

■南アジア地域

ADBとAIIBが共同融資 パキスタンの高速道路プロジェクト



[出所] mapchart.netより、SBIアセットマネジメントが作成

- 南アジア地域では、中国・新疆ウイグル自治区の都市カシガルとパキスタンのグワダル（グォーター港）を結ぶ全長3,000kmの中国・パキスタン経済回廊が建設されます。中国政府とパキスタン政府は、同回廊沿いに高速道路、鉄道、石油・天然ガスのパイプラインの建設を計画しており、推定**460億ドル**相当の開発プロジェクトになると見られています。
- AIIBは、アジア開発銀行（ADB）とともに共同で融資を行い、それぞれに1億ドルの融資を提供しました。当該プロジェクトは、パキスタンにとって北部と南部地域を結び、自国経済の成長に弾みをつけることが期待されます。

物流ハブとして存在感を高めるスリランカ（コロンボ港）



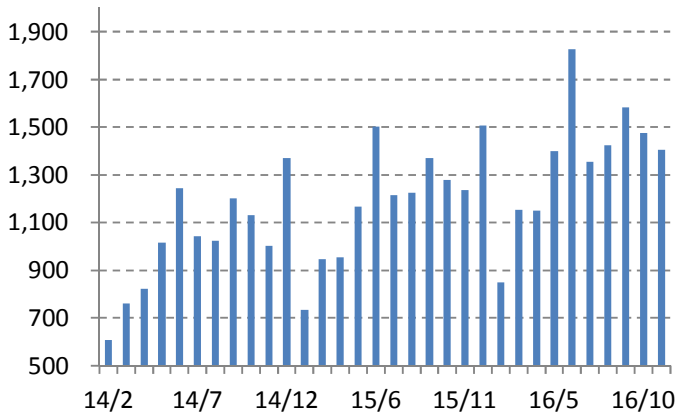
[出所] JAICA, Sri Lanka Ports Authority

- スリランカの貿易港であるコロンボ港は、世界物流の大動脈であるインド洋航路の中で中東と東アジアの中心に位置する重要湾港で、南アジアで最大規模、インド洋の物流ハブとしての存在感が高まっています。
- コロンボ港が注目される理由として、水深の深さが挙げられます。インドの主要港は水深が10m以下と浅く、大型コンテナ船の停泊が難しいため、水深が15mと深いコロンボ港で貨物を積み替え、小型船でインドの港へ運んでいます。コロンボ港が取り扱う貨物の7割が積み替え需要で、そのほとんどがインド向けとなっています。
- インドや中東、アフリカ市場への中継点として注目されており、21世紀の海上シルクロードの要所としての機能が期待されます。

中国のインフラ投資を支える「一帯一路」

中国のインフラ関連の固定資産投資の金額

(単位：10億元)



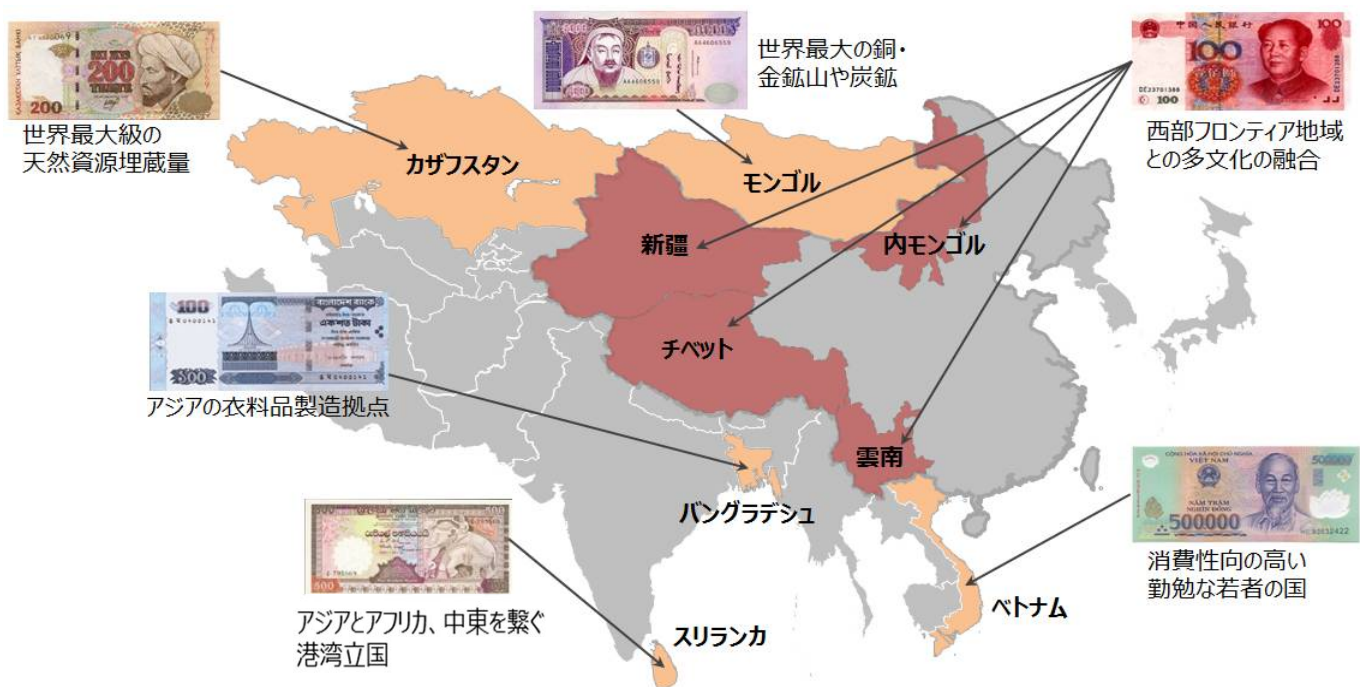
【出所】ハーベスト グローバル インベストメント リミテッド

- 英紙ロイターによると、「一帯一路」参加国への中国企業の投資額が2015年は約150億ドルに達し、前年比20%増加。同政策参加国と中国との貿易額は、2015年に1兆ドルを突破し、中国の対外貿易全体の約4分の1を占めたとされ、政策への本気度が伺えます。
- 「世界の工場」として高成長を謳歌してきた中国が、自国の景気減速状況に窮し、新しい持続的な成長の源泉を「一帯一路」政策に求めている構図であり、今後も更なるインフラ投資などが進むと期待され、その周辺国の経済規模の拡大が期待されます。

「一帯一路」政策の恩恵を享受する国々への投資機会

「一帯一路」政策が投資を想定している地域には、「フロンティア諸国」と呼ばれる国々が多く含まれます。フロンティアとは、未開拓という意味であり、いわゆる新興国（ブラジルやインド等）の後に発展すると言われている地域や国々のことを指します。フロンティア諸国に属する国としては、カザフスタン、ベトナムやスリランカ、バングラデシュ、モンゴル等が挙げられます。

＜ハーベストアジアフロンティアファンドの投資対象国・地域＞

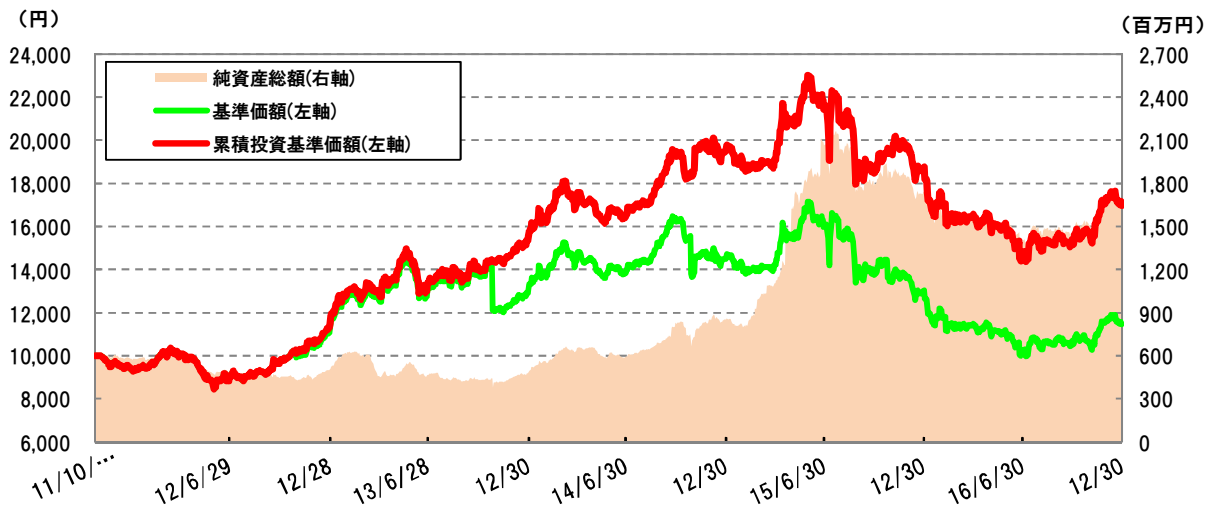


これらフロンティア諸国・地域の特徴として、「労働人口が多い・豊富な資源・内需拡大による旺盛な消費拡大」等が挙げられ、高い経済成長が期待できます。しかしながら、フロンティア諸国には自国の証券市場を持たない国も存在し、一般投資家にとって、フロンティア地域への投資間口はとて狭いといえるでしょう。

そこで、ハーベスト アジア フロンティア株式ファンドではハーベスト AF エクイティファンドへの投資を通じてフロンティア地域への投資を実現しています。フロンティア地域を活動拠点とする企業が上場している市場（香港など）に投資を行うことで、実質的にフロンティア諸国の経済成長の恩恵を享受することが期待できます。

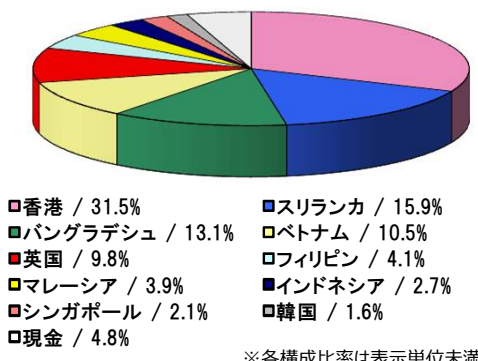
「一帯一路」政策の恩恵を享受する国々への投資機会

<ハーベストアジアフロンティアファンド 設定来 基準価額推移>

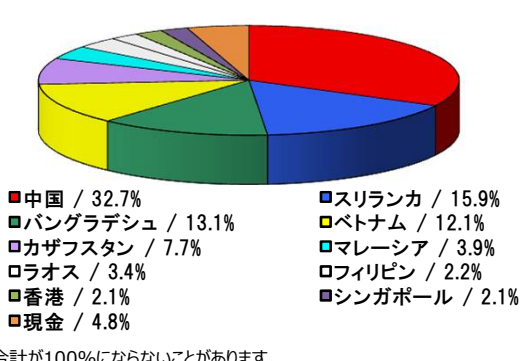


※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※累積投資基準価額は税引前分配金を再投資したもとして算出しています。
 ※データ期間 2011年10月28日（設定日）～2016年12月30日

投資市場別構成比率



投資対象国・地域別構成比率



※各構成比率は表示単位未満を四捨五入しているため合計が100%にならないことがあります。

組入上位5銘柄				
順位	銘柄名	投資対象国・地域 ^{※1}	業種	構成比 ^{※2}
1	KAZミネラルズ	英国	素材	7.7%
2	ベトナムデ일리	ベトナム	生活必需品	5.3%
3	プリティッシュ・アメリカン・タバコ・バングラデシュ	バングラデシュ	生活必需品	4.4%
4	MMG	香港	素材	3.4%
5	中国冶金科工集团公司	香港	資本財	3.4%

※1 「投資対象国・地域」は、実際の上場取引所の国々とは必ずしも一致しません。※2 ハーベスト AF エクイティ ファンドの純資産総額に対する比率です。

■ファンドにかかるリスク

投資信託は、主に国内外の株式・公社債等値動きのある証券を投資対象としますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行体の財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、その結果、大きく損失を被る場合があります。また、投資信託は、それぞれの投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

■直接・間接にご負担いただく費用等

（お買付時に直接ご負担いただく費用）

- お買付手数料 上限3.24%（税抜3.0%）
（途中解約時に直接ご負担いただく費用）
- 信託財産留保額 上限 0.3%
（保有期間中にファンドが負担する費用（間接的にご負担いただく費用））
- 信託報酬※ 上限 年1.4472%（税抜：年1.34%）

※成功報酬制を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限等を示すことができません。また、上記上限を超える場合があります。

●その他の費用

監査費用、有価証券売買時にかかる売買手数料、信託事務の諸費用等が信託財産から差引かれます。その他の費用は、監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用等につきましては、一般的な投資信託を想定しています。費用の料率につきましては、SBIアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただく費用における上限を記載しております。また、成功報酬を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限額を超える場合があります。投資信託にかかるリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、必ず該当投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

■投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。